

# 柿田川生態系研究会の活動報告

## Activity Report of the Kakita River Ecosystem Workshop

自然環境グループ 研究員 澤田みつ子  
 自然環境グループ グループ長 森 吉尚  
 主席研究員 宮本 健也

### 1. はじめに

柿田川は、富士山周辺の雪どけ水等を起源とする湧水を水源としている、静岡県清水町の中心部を北から南に流れる延長 1.2km の狩野川水系の支川である。2011年には文化庁の天然記念物に指定され、「日本で最も短い一級河川」として知られている。

柿田川の水温は年間を通じて15℃前後で変化が小さく、水質もBOD値が概ね1mg/L以下と良好である。出水の影響をほとんど受けないため流量も安定している。また、ミシマバイカモやアオハダトンボ等の動植物の生育地となっている。



写真-1 清流に生育するミシマバイカモ  
 (撮影 2018年6月 柿田川(柿田川公園内))

柿田川生態系研究会(以下「研究会」という)は、柿田川における生物の生活史、生態系の構造と機能等、河川生態系の基本的な特徴を明らかにし、通常の河川における湧水の役割を理解する一助となることを目的に、多分野の学識者による共同研究プロジェクトとして活動・運営されている。本研究ではこの活動の支援を行った。

### 2. 平成30年度の活動成果

平成30年度は表-1に示す活動を行った。

表-1 平成30年度の柿田川生態系研究会の活動

時期		活動計画
春季	5月12日	湧水環境の現地視察(富士山周辺)
	5月13日	第33回柿田川生態系研究会
夏季	8月8日	柿田川サマーサイエンススクール
秋季	11月17日	第15回柿田川シンポジウム
	11月18日	第34回柿田川生態系研究会

### 2-1 湧水環境の現地視察/第33回柿田川生態系研究会

5月12日に山梨県の富士山周辺にて、研究会会員による湧水環境の現地視察を行った。柿田川の湧水の源である富士山の周辺において溶岩地形、バイカモの生育地等を視察することで、富士山の地質環境が湧水環境へもたらす影響について知見を深めた。

翌5月13日に開催した第33回研究会では、会員による最近の研究の報告(サーマルカメラによる湧水の観測、栄養塩・ミネラルの輸送、他)や、今後の研究計画(柿田川の河川生態系の特異性解明、他)の発表が行われた。



写真-2 富士山周辺湧水環境の現地視察(山梨県都留市 夏狩湧水群 長慶寺 ~湧水にバイカモが生育~)

### 2-2 柿田川サマーサイエンススクール

8月8日に清水町立清水小学校理科室及び教材園にて、地元の小学4~6年生(20名)とその保護者を対象に沼津河川国道事務所と共同主催で「親子でサマーサイエンススクールー柿田川の自然環境を考えようー」を開催した。

本スクールは、研究会会員の指導による屋内外での採集、実験、観察、質疑応答を通じて身近な柿田川的环境や特徴を体感し、科学への興味や身近な自然環境への関心等を地域の児童とその保護者に一層深めてもらうことを目的とした。

スクール後、参加児童に対してアンケート調査を行ったところ、「植物と昆虫、魚などがお互いに協力し、助け合う連携によって自然環境が保たれていることを理解できましたか?」および「これからも水生生物が

生きていくことができる柿田川の環境を守りたいと思いますか？」という質問に対して、いずれも「理解できた」、「そう思う」という回答が100%となった。また、保護者からも「子供にとって良い経験となりました」といった感想が寄せられた。



写真-3 水生昆虫の採集を行う児童たち

### 2-3 柿田川シンポジウム／第34回柿田川生態系研究会

11月17日に、静岡県三島市の三島市民文化会館にて、沼津河川国道事務所の共催で第15回柿田川シンポジウム「小動物から何がみえてくるか」を開催した。当日は、地元の環境保護団体、柿田川の近隣住民、地元高校の理科系部活動の生徒・教員、行政関係者や研究者など約100名が参加した。

シンポジウムのプログラムは表-2に示すとおり二部構成で、第1部は研究者からの話題提供として、研究会から4名の講師が河川の小動物に関連する講演を、第2部は「各機関からの報告」として、地元の各機関及び高校の6団体から報告が行われた。第2部のうち、加藤学園高等学校化学部からは、黄瀬川における溶岩石による水質浄化機能（リンの除去作用）についての実験結果を、前狩野川漁業協同組合長の植田正光氏からは、柿田川およびその本川である狩野川におけるアユの遡上・産卵期の特徴をご発表いただいた。

翌11月18日には、同会場にて第34回研究会を開催し、会員からの研究報告、活動報告、及び次年度の活動計画について議論を行った。



写真-4 ほぼ満席となったシンポジウム会場

表-2 第15回柿田川シンポジウムのプログラム

発表者(敬称略)	タイトル
第1部 研究者からの話題提供	
佐藤 慎一 静岡大学 教授	静岡県内の干潟における二枚貝類の分布と生態
塚越 哲 静岡大学 教授	間隙性貝形虫類について—狩野川河口域を例として—
竹門 康弘 京都大学 准教授	河川と地下をつなぐ河床間隙動物
東城 幸治 信州大学 教授	底生動物からみる柿田川と狩野川のつながり
第2部 各機関からの報告	
漆畑 信昭 公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 会長	柿田川における自然保護活動
太田 雅明 清水町都市計画課長	柿田川における清水町の取組について
小南 嘉宏 静岡県企業局 東部事務所 柿田川支所 技監兼支所長	地域とともに歩む駿豆水道
杉山 紀行 国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所 副所長	柿田川自然再生計画の取り組み
加藤学園高等学校 化学部	黄瀬川における化学的視点からの調査～溶岩石の浄化機能～
植田正光 前 狩野川漁業協同組合長	アユから見た柿田川

※本報告において、役職は当時のものを引用。

### 3. おわりに

平成30年度は、サマーサイエンススクールを初めて親子教室として開催した他、柿田川シンポジウムでは地元の高校からの発表が行われた。いずれも好評で、研究会の活性化につながり、新たな展開を広げることができたことから、今後も若い世代の参加を積極的に促したい。

### <参考文献>

- 文化庁：国指定文化財等データベース，史跡名勝天然記念物 柿田川，  
<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp>
- 柿田川生態系研究会：柿田川の自然 湧水河川を科学する，ITSC 静岡学術出版事業部，2010
- リバーフロント研究所：柿田川生態系研究会，平成30年度 第15回柿田川シンポジウム小動物からなにが見えてくるか，<http://www.rfc.or.jp/H30kakita.html>
- 澤田みつ子，蔭山一人，舟橋弥生，太田昌志：柿田川生態系研究会の活動報告，リバーフロント研究所報告，第29号，pp.15-16，2018